

民俗学への旅

3. 松本の神々—御先荒神と三宝荒神—

市東 真一

松本地域に存在する民間信仰の中には、由来がはっきりしないものが数多く存在する。その中に、ミサキ（御先）荒神と呼称される神がいる。

「荒神」の読み方は「アラガミ」ではなく、「コウジン」である。その他に、「御崎」や「光神」とも表記される。このミサキ荒神と呼称される神は、先に紹介した稲荷社や三峯社と異なり、個人宅や同族集団で祭祀される神である。

「ミサキ」の意味については、神使や神聖な場所を表す古語から来ているという説もある。この荒神とは、文字通り荒れる神、つまり人に危害を加える祟り神をさす。松本においてこの御先荒神については、個人宅や同族集団などで災害があった場合、祟り封じの神として祀られている。また、御神体も神璽から位牌、石など様々なものがご神体である。ほとんどの御先荒神は、御嶽山で修行をしている御嶽行者が勧請したものである。現在でも、災いが続いた家などで新たに祀られている。この御先荒神の正体は、非業の死を遂げた靈魂である。その災いをなす魂を神として祀り、その祟りを鎮めて、家の守り神にしたものである。

また、「コウジンサマ」という呼称は、台所で祀られる三宝荒神という神についても同様に呼ばれている。この三宝荒神は、仏、法、僧の三宝を守護するとされる日本で創出された三面六臂で、怒りの形相を示す仏である。この三宝荒神は、不浄を嫌って火を好むとされている。そのため、江戸時代以降、三宝荒神はかまどの神として祀られるようにな

る。現在でも、松本地域では三宝荒神と呼称される三色（赤、緑、黄）の御幣が祀られており、家内の安全を守護する神となっている。

同じ「コウジンサマ」でも、家へ災いをなす存在を神として祀る御先荒神、かまどの神であり家の災いから守る三宝荒神のように、まったく異なる神である。現在、私は松本を中心に地域の民間信仰を研究しているが、この御先荒神については形態が非常に多く把握できていないのが現状である。もし、この文章を読んでいる方で御先荒神を祀っている、もしくは知っている人が居られたら連絡いただけたら幸いである。

（神奈川大学日本常民文化研究所 特別研究員

淑徳大学埼玉キャンパス地域創生学部 開発準備室所属

埼玉県川越市在住）



六月例会

六月二十五日(土) 午後一時より

会場 Mウイング中央公民館

四階会議室

会費 五〇〇円 雑詠 三句

☆時間に遅れぬようお願いします。

募集規定

・りんどう集(七句) 真木子・牛朗選

用紙 添付の投句用ハガキ使用こと。

締切 毎月末日

・山霧集・雷鳥集

用紙・締切共りんどう集と同じ。

山霧集は自選七句

雷鳥集は自選六句

・特別作品 未発表のもの二〇句

用紙 原稿用紙使用のこと。

締切 毎月末日

・他に評論、随筆、感想文等随時募集

採否は主宰又は編集部一任のこと。

送り先 編集所宛

・俳句の表記については旧かな・新かなの

選択は作者にお任せします。



句集・自分史・記念誌の制作は
経験と実績豊かな電算印刷へ

編集ノート

「季題競詠」の投句者が固定してしまっている。数も多くない。掲載となる23句ギリギリという月もあるようだ。

山霧集、雷鳥集、りんどう集、それぞれへの投句はいわば自分の好きで季語を選ぶことができるが、「季題競詠」では季語が決められているのだから作り方に縛りがあるわけで難かしいと思う人もいるだろう。

子規の俳句改革以降を見ても昭和に入ってから句会では席題が決められ、その季語でその場で作り投句する、というのが主流、予め作った句を持ち寄っての句会は稀だったという。虚子などそういった句の作り方で修練を積んだのである。

与えられた季語の理解と自分の経験、それとイマジネーションとで一句を作る、これは勉強になること間違いなしだ。りんどう集の人たちは一人残らず投句してほしい。同人とてペテランの意識を捨てて初学に戻り投句されてはどうか。自分の殻やスランプ脱出につながるかもしれない。自分にムチ打つことは大切だ。

(牛朗)

同人費 半年 一二、〇〇〇円

一カ年 二四、〇〇〇円

会費 半年 六、〇〇〇円

一カ年 一二、〇〇〇円

送金先 390-0316 松本市原四五七-二

小田 晃方 りんどう発行所

郵便振替口座 〇〇五九〇一七一九六一七

俳誌「りんどう」発行所

りんどう六五七号

発行所 390-0316 松本市原四五七-二

小田 晃方 りんどう発行所

電話 (0263) 4616105

FAX (0263) 4616105

編集所 390-0874 松本市大手四一六一

降旗牛朗方 りんどう編集所

電話 (0263) 3311817

FAX (0263) 3311817

編集兼 藤岡 筑 郵

発行人 390-0821 松本市筑摩一-1-130

印刷所 電算印刷株式会社

電話 (0263) 2514329